

2021 年度春季大会の告示

I. 大会の案内

2021 年度春季大会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、2020 年度秋季大会と同様、インターネットを介したオンライン開催とし、総会と授賞式、受賞記念講演、シンポジウムのみ現地開催とします。なお社会情勢に応じて、すべてオンライン開催とする場合があることをご承知おきください。

1. 期 日

大会は5月18日（火）～21日（金）を含む1週間程度の日程で行う予定です。詳細が決まり次第、大会ウェブサイトでお知らせします。

2. 総会、授賞式、受賞記念講演、シンポジウム

開催方式

現地開催とオンライン配信の同時進行

日程

2021年5月21日（金）

会場

筑波大学 大学会館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

<http://www.tsukuba.ac.jp/access/gmap/gmap.php?f=1>

3. 研究発表

大会ウェブサイト上に講演資料をおいて議論するオンデマンド形式を主とし、ウェブ会議システム（Zoom）による口頭発表も併用します。

4. オンライン大会の参加にあたって

講演や聴講、質疑を行うには気象学会 Google Workspace (G Suite) アカウント（会員）または Google アカウント（非会員）が必要です。Google Workspace アカウント発行の申請は、会員サイト (<https://www.metsoc.or.jp/membersite>) より可能です。

5. ジュニアセッション

大会期間中にオンラインで開催予定です。詳細が決まり次第、大会ウェブサイトでお知らせします。

6. 懇親会

開催の予定はありません。

7. 大会ウェブサイト

本大会用の大会ウェブサイトを開設しています。大会参加手続き、講演申込み受付、大会プログラム、発表要領、大会発表規程などの詳細につきましては、大会ウェブサイトにて最新の情報を随時更新していきますので、こちらをご参照下さい。 URL 等につきましては、気象学会ホームページ (<https://www.metsoc.jp/>) をご参照下さい。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

本大会告示の後に掲載した「日本気象学会 大会発表規程」に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、電子メールによる申込を受け付けます。

なお、大会参加登録、参加費・投稿料支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。 また、非会員の講演申込は専門分科会に限定していますのでご注意ください (VI. 非会員、団体会員の大会講演について)。

パソコン・タブレット等の端末、インターネット環境等は、各自でご準備ください。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2021年2月17日(水)15時(日本時間)
- ・大会ウェブサイト参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報とID・パスワードの登録を行います(前回のID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報とID・パスワードの登録を行って下さい)。このIDとパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・参加費決済などを行います。
- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。 申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。 また、一つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。 ご協力をお願いします。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と参加費・投稿料の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。 大会参加登録と参加費・投稿料の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込締切(2月17日(水)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締切後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2021年2月10日(水)
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意下さい。)
- ・以下の4点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールにてお送り下さい。

- ① 大会予稿原稿 (PDF 形式)
- ② 講演者氏名 (漢字, ふりがな, ローマ字), 所属, 所属略称, 会員番号 (非会員の場合は「非会員」と明記), 口頭発表希望の有無, 連絡先 (住所・電話番号・E-mail アドレス), 講演題目, 主・副キーワード, 投稿料種別 (投稿料 A/投稿料 B), その他必要事項を書いたもの (様式は自由)
- ③ 郵便振替払込受領証のコピー (次項参照)
- ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書 (フォーマットは以下に掲載)

https://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf

送付先: kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp

(件名に「講演申込 2021s」と明記して下さい。)

- ・講演申込の前に, 以下の要領に従って郵便振替によって参加費・投稿料を納入して下さい。

－口座番号は「00130-3-5958」,

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2021 年度春季大会参加申込」と明記
- ②会員番号 (非会員の場合は「非会員」と明記)
- ③投稿料種別 (投稿料 A または投稿料 B)
- ④参加費・投稿料金額
- ⑤合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に, 住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込後は, 講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも, すでに支払われた参加費・投稿料は返却しませんのでご注意ください。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては, 柔軟に対応いたしますので講演企画委員会 (kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp) までご相談下さい。ただし, 非会員による代理発表は認められません。

2. 講演をしない (聴講のみ) 場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため, なるべくオンライン (大会ウェブサイト) による事前登録をご利用下さい。パソコン・タブレット等の端末, インターネット環境等は, 各自でご準備ください。

2.1 オンラインによる申込

2021 年 5 月 12 日 (水) までに大会ウェブサイトに参加登録し, 参加費を払い込んで下さい (クレジットカード決済のみ)。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は, 参加登録は無効となります。

2.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため, なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切: 2021 年 3 月 31 日 (水)

(オンライン申込に比べて締切日が 2 ヶ月程度早くなっています。ご注意ください。)

- ・以下の 2 点を講演企画委員会事務局 (下記) まで電子メールにてお送り下さい。

- ① 参加者氏名 (漢字, ふりがな, ローマ字), 所属, 所属略称, 会員番号 (非会員の場合は「非会員」と明記), 連絡先 (住所・電話番号・E-mail アドレス) (様式は自由)
- ② 郵便振替払込受領証のコピー (次項参照)

送付先：kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp

(件名に「講演申込 2021s」と明記して下さい。)

- 参加申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費を納入して下さい。
 - 口座番号は「00130-3-5958」，
加入者名は「日本気象学会」です。
 - 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
 - ①「2021 年度春季大会参加申込」と明記
 - ②会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
 - ③参加費金額
 - ④合計金額
 - 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字，ふりがな，ローマ字）・電話番号をもれなく記入して下さい。
 - 払込料金は本人負担でお願いします。

3. 参加費，投稿料

3.1 大会参加費，投稿料

- 参加費と投稿料に分離されています。参加費には大会講演予稿集費が含まれます。
- 参加費（予稿集費含む，消費税込）は以下の表の通りです。2021 年 3 月 31 日までに申し込んだ場合は通常の参加費から 1,500 円低価となりますので，早めの申込をご検討ください。

種別	参加費	
	2021 年 3 月 31 日まで	2021 年 4 月 1 日 ～5 月 12 日
会員	3,500 円	5,000 円
非会員	7,500 円	9,000 円

- 投稿料（消費税込）は以下の表の通りです。

投稿料		
種別	1 件	2 件
投稿料 A	6,500 円	11,500 円
投稿料 B	3,000 円	6,000 円

- 投稿料の種別：
 - 投稿料 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし，学部生・院生は除く）
 - 投稿料 B：投稿料 A に該当しない講演者による投稿
- 投稿料 A の 2 件目の投稿料は 5,000 円に割引されます。
- 気象学会会員でない方の講演発表については，「VI. 非会員，団体会員の大会講演について」を参照して下さい。

3.2 その他

- 一旦支払われた参加費・投稿料は返却いたしません。
- 参加費・投稿料の種別は，支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

2. 作成方法

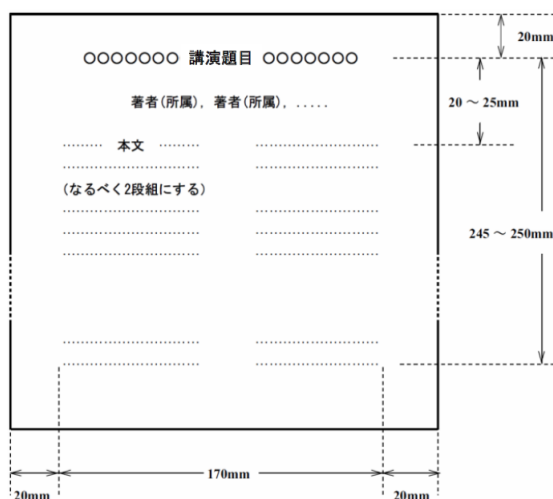
ファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。

3. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文は原則として 2 段組（左半分→右半分）にして下さい。

4. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（公社）日本気象学会に帰属します。



図：A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

Ⅳ. 研究発表要領

1. 一般発表の概要

一般発表は、2020 年度秋季大会と同様に、次のようなオンデマンド講演を主とします。講演者は講演資料（PDF や Google スライド、PowerPoint 等）をインターネット上の所定の場所にアップロードし、運営側が大会ウェブサイト上でそれを公開します。聴講者はそれを閲覧します。質疑は、聴講者が講演資料に対してコメントを残し、講演者が返答する形で行います。議論には学会の Google Workspace (G Suite) に含まれる Meet や Chat を使用します。アカウント発行の申請は、会員サイト <https://www.metsoc.or.jp/membersite> で可能です。

より充実した大会にするために、上記に加えて、ウェブ会議システム (Zoom) による口頭発表も併用します。口頭発表の希望の有無を、講演申込時に選択してください。なお大会運営の都合により口頭発表数には上限を設定させていただきます。希望者全員が口頭発表できるわけではないことをご承知おきください。あわせて口頭発表可能な講演は、1人1件とさせていただきます。

詳細については大会ウェブサイトにて随時公開していきますので、適宜ご確認ください。なお、講演資料の公開および閲覧については5月18日(火)～21日(金)を含む1週間程度の間、自由に行う予定です。

2. 専門分科会の概要

専門分科会も、原則、上記と同じ形式で実施します。世話人の裁量で、所定の時間枠の中でZoomによるウェブ会議を組むことができます。

- ・専門分科会への講演申込締切日は一般講演と同じ(オンライン申込は2月17日(水)、電子メール申込は2月10日(水))です。
- ・専門分科会に申込みされた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申込みされた発表が、世話人によって専門分科会に適さないと判断された場合には、講演者が気象学会会員の場合は、一般発表に振り替えます。講演者が非会員の場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます(VI. 非会員、団体会員の大会講演について)。
- ・各専門分科会の詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

3. 発表件数の制限

1講演者あたりの発表件数は2件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの2件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

4. その他

- ・発表に使用するPCのOSやウェブ会議ソフト、ブラウザは、最新のものにアップデートすることを推奨します。
- ・発表資料のアップロード、公開、質疑応答、ウェブ会議システムの利用に関する詳細は、後日、大会参加者に通知いたします。質問は、講演企画委員会 (kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp) までご連絡ください。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2021年度春季大会では下記の通り、7件の専門分科会が開かれます。

1. 「大気鉛直運動を基軸とした地球環境学の新展開」

趣旨：大気鉛直運動は大気循環の様々なスケールで重要な役割を果たしており、全球的な大気大循環はもとより、集中豪雨をもたらす積乱雲、雲降水形成過程、人為起源温室効果ガス等の物質の鉛直輸送、対流圏・成層圏の物質交換といった地球環境の諸問題において、中心的な役割を果たしている。大気鉛直運動を広域で直接観測することは難しく、数値モデルにおいても解像度に依存するなど、現状においてもその実態がよく理解されているとはいえない。本分科会では新しい観測技術によって捉えられた鉛直運動の観測研究、EarthCARE衛星等の今後の雲の鉛直運動観測、高解像度数値モデリング、解析・理論の多様な側面から大気鉛直運動にアプローチし、大気鉛直運動に関する包括的な理解の深化を通じて、地球環境学に関する新しい研究の展開をめざすための議論を行う。

世話人：佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所），佐藤薫（東京大学大学院理学系研究科），伊藤純至（東北大学理学研究科），丹羽洋介（国立環境研究所），清木達也（海洋研究開発機構），増永浩彦（名古屋大学宇宙地球環境研究所）

2. 「気象分野における途上国支援・協力の現状と今後の展望」

趣旨：日本国際協力機構(JICA)はアジアを中心として気象分野の技術協力プロジェクトや無償資金協力によって途上国支援を進めており，対象を大洋州やアフリカに広げている．気象庁は途上国気象局を対象とするJICA 集団研修を1973年から，また世界気象機関(WMO)の枠組みで気象観測・予報，熱帯低気圧，気候情報の研修やワークショップを開催している．大学や研究機関は科学技術振興機構(JST)，日本学術振興会(JSPS)，地球規模課題対応国際科学技術プログラム(SATREPS)などによる研究協力プログラム，留学生の受入れ等を通じて途上国の研究・教育の発展に貢献している．

本専門分科会では招待講演も含め，これまで各分野が個別に実施してきた途上国の支援・協力を振り返り，現状の問題点や課題を整理し，より効果的な支援・協力のあり方，機関の間の情報交換や人的交流による連携強化の道を模索する．

世話人：赤津邦夫（元国際協力機構），石原正仁（国際協力機構），小川智（気象庁），余田成男（京都大学）

3. 「気象庁データを利用した気象研究の現状と展望」

趣旨：平成19年に気象庁と日本気象学会は共同研究契約を締結し，「気象研究コンソーシアム」を設立しました．これ以降，気象庁の数値予報データや気象衛星ひまわりなどの最先端の解析・観測データの提供などを通じ，気象研究とその研究成果の社会還元への促進に努めています．本分科会では，①数値予報データを利用した研究，②観測データを利用した研究，③数値予報モデル・データ同化手法の開発と精度向上の研究，などに関する講演を募集し，気象庁データが拓く新しい気象研究について展望します．

また，先端技術の展望等を踏まえ，様々な主体が担う気象業務が，今後さらなる発展を遂げ様々な社会的課題の解決に一層貢献していくことに産学官が連携して取り組んでいくために必要な気象データや解析・予報技術等の共有のあり方などについても議論します．

なお，本分科会への講演申込には，コンソーシアムへの参加の如何は問いません．

世話人：坪木和久（名古屋大学宇宙地球環境研究所），林祥介（神戸大学），本田有機（気象庁），石田純一（気象庁数値予報開発センター）

4. 「気候変動・極端気象と都市環境」

趣旨：都市には，人口が集中し，社会経済活動が集中し，気候変動や極端気象からさまざまな影響を受ける．このセッションではそれらによる問題の解決に向け，以下のテーマに関連する研究の投稿を募集する．

- 1) 都市環境に対する気候変動・極端気象の影響．
- 2) 都市化に関わる環境問題，すなわち都市住民の健康，大気汚染，エネルギー需要，水循環など．
- 3) 持続可能な都市発展を目指すため，気候変動・極端気象に対応できる独創的かつ持続的な緩和・適応策の提案．

世話人：Doan Quang Van（筑波大学），藤部文昭（東京都立大学），竹見哲也（京都大学），菅原広史（防衛大学校），梶野瑞王（気象研究所），日下博幸（筑波大学）

5. 「気象衛星ひまわり8号・9号の利用とその後継衛星への要望」

趣旨：気象衛星ひまわり8・9号は，2029年度には運用を終える予定である．このため後継衛星を2028年度には打ち上げる必要があり，製造期間も考慮すると2023年度にはその製造を開始する必要がある．2021年度は仕様の詳細を固めるステージとなっており，後継衛星に関わる要望を仕様に反映させるには，本会は広く意見を求める残り少ない機会の一つになる．

本会では、現在のひまわりデータの利用や今後の利用計画に関する講演を広く募集する。講演の中では、その技術開発やデータ利用を通じて得られた、後継衛星に関する要望も発表していただきたい。本会での議論を通じて、これまで気象学会等で議論してきたイメージャのバンド選択や、赤外サウンダ・雷センサ等の必要性のみならず、観測モードやデータ品質、配信のフォーマット・時間・方法、アーカイブ手段など、後継衛星の仕様の詳細検討に必要な事項について幅広く議論することを予定している。

世話人：別所康太郎（気象庁気象衛星課），岡本幸三（気象研究所気象観測研究部），中島孝（東海大学），樋口篤志（千葉大学），本多嘉明（千葉大学）

6. 「理学的観点と防災上の実用的観点からの線状降水帯の研究の整理」

趣旨：近年、線状降水帯による大規模な水害や土砂災害が頻発している。メディアにも大きく取り上げられ、国民の大きな関心となっている。線状降水帯は、定性的には「複数の積乱雲が組織化することで発生する数時間程度の強い降水域」とされており、線状降水帯という言葉は、特有の物理プロセスによる降水形態（降水システム）の発現、それに伴う線状に広がる降水域の2つの意味が内在し、原因と結果を1セットとして捉えている。線状降水帯の形成・維持のメカニズムには未解明の点が多いことに加え、“線状に延びる降水域”を認識でき、かつ、災害につながる雨量の具体的な閾値は地域によって幅が大きいことから、その明確な定義は難しい。線状降水帯の発生・発達プロセスやそのメカニズムの解明に向けた学術的視点と、防災上の様々な対応に向けた実用的視点の両方から、線状降水帯とは何かを整理し、最新の線状降水帯の研究を共有する専門分科会を開催する。

世話人：清水慎吾（防災科研），前坂剛（防災科研），清野直子（気象研），廣川康隆（気象研），増田有俊（日本気象協会）

7. 「アジアの水文気候学的変動の予測可能性向上にむけた AsiaPEX の展望」

趣旨：AsiaPEX (Asian Precipitation Experiment)は、多様な水文気候学的条件下にあるアジアの陸上降水の理解を通じた予測可能性向上と減災、持続可能な発展への貢献を目的として発足し、2年目を迎える。この間、6つのアプローチ（(1)アジアの降水の観測と推定、(2)陸面大気カップリング、(3)季節内変動スケールから十年規模に至る予測可能性、(4)人間活動や雪氷圏も含む高解像度水文モデリング、(5)効果的な観測モデリング計画の立案、(6)信頼できる気候変動予測の探求）に基づく研究が推進されてきた。本専門分科会では、最近の研究活動を相互に交流するとともに、今後3年間のサイエンスの焦点を展望する。「予測可能性」を本セッションの共通するテーマとして設定することにより、AsiaPEX 全体に共通する課題を確認したい。関連するすべての発表を歓迎する。

世話人：寺尾徹（香川大学教育学部），鼎信次郎（東京工業大学環境・社会理工学院），松本淳（東京都立大学都市環境学部）

VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では専門分科会に申込まれた講演が世話人により採用された場合に限り、非会員の講演を認めることとします。非会員が専門分科会に申し込んだ講演が採用されなかった場合は、大会予稿は不採択となり、参加費・投稿料が返却されます（講演者が気象学会会員の場合は、専門分科会で不採用になったとき、世話人と講演企画委員会の判断により一般発表への振替が行われます）。講演企画委員会としては、大会での講演発表を希望される方には、気象学会会員になって頂くようお願い申し上げます。

Ⅶ. 団体会員，賛助会員の大会参加について

団体会員，賛助会員は，2名まで個人会員と同等の扱いで大会に参加することができます．講演申込の際には，予稿原稿の著者欄に下記のように団体名を記述してください．

〇〇〇会社（講演者*，共著者，・・・）

Ⅷ. 研究会活動の案内について

大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動（一般の会員が自由に参加できるもの）の案内を予稿集や大会ウェブサイトに掲載することを希望する方は，次の事項を明記した原稿を，講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2021s@mri-jma.go.jp）へお送り下さい．

申込期限：2021年3月3日（水）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 日時・開催方式（ウェブ会議等）
4. 趣旨
5. プログラム

Ⅸ. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では，大会期間中に保育支援を行う方向で考えておりますが，コロナ禍における社会情勢の変化を見極めて検討を続けております．受け入れ先，手続きおよび補助額等も含め，決定次第，学会ホームページや大会ウェブサイトでお知らせいたします．

Ⅹ. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年，社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために，日本気象学会では，キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています．これは，広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので，会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に，適職に出会うのをサポートします．

2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます．カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます．

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員，またはそれに準ずる会員が講演する場合に，大会予稿および講演資料の中で，キャリアエクスプローラーロゴを使用できます．

1. 大会予稿：白黒ロゴを，講演題目の左側に，余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
2. 一般発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。発表の時間内は，求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても，日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

XI. リクルートブースの設置について

日本気象学会では，気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートするため，企業の就職担当者と就職を希望する参加者が直接情報交換する場として，ウェブ会議形式のリクルートブースを設置する予定です。参加企業名およびブース開設期間など詳細については大会プログラムとともにお知らせする予定です。

オンライン開催となる 2021 年度春季大会での講演は、これまでの大会で行われてきた講演（口頭発表及びポスター発表）と同様に扱われ、次の大会発表規程に準拠します。

公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

（公社）日本気象学会 講演企画委員会

1. 大会の趣旨

- 1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

2. 大会参加登録

- 2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、あらかじめ大会 WEB サイトを通じて個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行うこと。
- 2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。
- 2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

3. 大会予稿の作成

- 3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

4. 著作権の委譲

- 4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

5. 大会予稿の投稿

- 5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投稿、外来研究者による投稿など、発表者による投稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。
- 5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

6. 審査

- 6.1 委員会は、審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。
 - (1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、
 - (2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、
 - (3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、
 - (4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、

(5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、

(6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合

6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。

6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。

6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

7. 再審査

7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、委員会事務局宛に提出すること。

7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。

7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

8. 採択後の変更・キャンセル

8.1 採択後に講演内容（講演題目、大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。

8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は、速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には、大会参加料は返却しない。